

イカナゴ資源管理推進調査

林茂幸・岩出将英・松岡真也・藤島弘幸¹⁾

1) 津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理はほぼ定着しつつあるが、漁獲量の変動は大きく変動し続けている。そこで、必要となる科学的知見を収集し、自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することにより、より高位で安定的な漁獲水準を維持できるようにすることを目的とする。

方法

(1) 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山夏眠場において、親魚となる夏眠魚から釣りにより定量的に採集し、分布密度、魚体サイズ、夏眠開始期の栄養状態、夏眠魚の年齢組成等を調査した。(実施時期：6～7月)

(2) イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定の資料とした。(実施時期：1～2月)

(3) 市場調査・資源量管理

各操業日毎に漁獲物の魚体測定、漁獲努力量、漁獲量データを収集、解析することにより、加入資源量及び残存資源量を算出し、終漁日決定の資料とした。(実施時期：3月～5月、実施場所：白子港及び白塚港の2港)

結果および考察

(1) 夏眠魚調査

6月10日に神島の南東約10kmの出山海域で実施した夏眠魚の空釣り調査の結果、採集魚は当歳魚及び2歳魚を含め659尾/km(昨年3,032尾/km)であり(図1)、うち2歳魚の割合は3.8%(昨年1.5%)であった。

採集魚のほぼすべてを占める当歳魚の平均体長は80.2mm(昨年72.8mm)、平均体重は2.06g(昨年1.41g)、平均肥満度は3.95(昨年3.60)であり、翌漁期の産卵に寄与する肥満度4.2以上の当歳魚の個体は21.0%(昨年7.0%)であり(図2)、前漁期に比較し大型であり肥満度も大きかった。

なお、2回目の夏眠魚調査(7月31日実施)では、採集尾数が354尾/kmと、6月調査時に比較し減少していた。

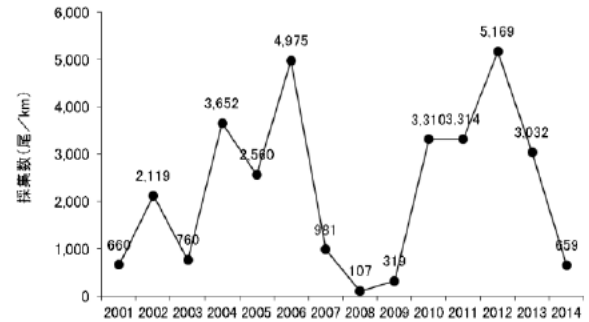


図1. 出山における夏眠魚採集数の推移
(5月下旬又は6月上旬採集)

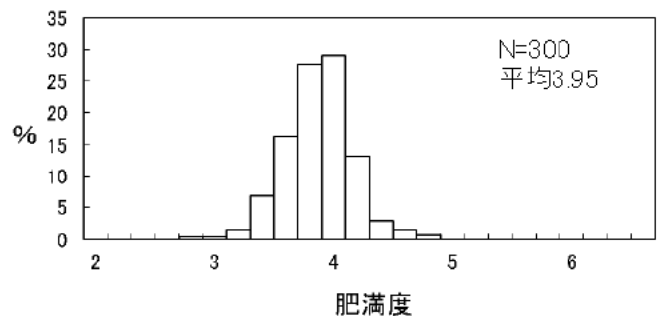


図2. 夏眠開始期におけるイカナゴ肥満度組成(当歳魚)

(2) イカナゴ仔魚分布調査

平成27年1月13-14日のボンゴネット調査により採集したイカナゴ仔魚の伊勢湾全域での平均採集尾数は、40尾/m²(表1)であった。仔魚分布密度と新仔加入量の関係(図3)から推計した2015年漁期の初期資源尾数は、近年の3分の1から2分の1程度の100~150億尾程度と推計され、2月に実施したボンゴネット調査の結果を考慮すると、さらに低位な資源量となる可能性が推定された。

表 1. ポンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

		単位:尾/m ² ※愛知水試のデータを含む				解禁日	加入量 (億尾)
		1月上旬 伊良湖前	1月中旬 伊勢湾平均	1月下旬 全湾平均	2月上旬 伊勢湾平均		
2001	H13	1,121	56	31	14	3月4日	241
2002	H14	377	260	170	73	2月24日	434
2003	H15	394	248	—	37	2月21日	195
2004	H16	554	141	55	9	3月4日	361
2005	H17	426	215	16	3	3月8日	163
2006	H18	1,015	176	130	175	3月9日	651
2007	H19	873	228	98	32	2月27日	182
2008	H20	145	55	18	13	3月2日	180
2009	H21	0	8	3	1	3月8日	44
2010	H22	643	236	216	310	3月3日	504
2011	H23	78	195	62	30	3月11日	283
2012	H24	141	118	60	25	3月8日	321
2013	H25	233	71	21	27	2月28日	302
2014	H26	815	26	70	29	3月2日	292
2015	H27	57	40	1	3	3月6日	

注)2005年は1月中旬は湾口2地点の平均
2012年は2月13-14日に実施

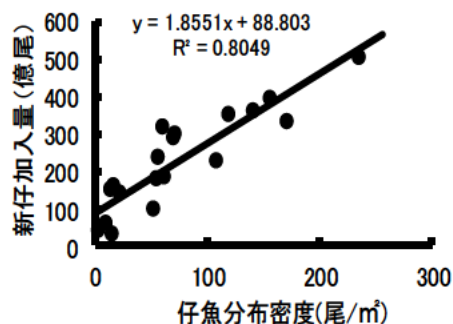


図 3. 仔魚分布密度と新仔加入量の関係

(3) 市場調査・資源量管理

①2014 年漁期

2014 年漁期は 3 月 2 日(昨漁期 2 月 28 日)に解禁し、5 月 15 日(昨漁期 6 月 2 日)に終漁した(愛知県は 5 月 14 日終漁)。出漁日数は 36 日(昨漁期 35 日)、漁獲量は 7,541 t(昨漁期の 109%)、水揚げ金額は 6 億 2 千 562 万円(昨漁期の 111%)となり、漁獲金額は過去 10 年間で 2 番目に多い金額となった。

今期の加入資源尾数は 292 億尾と推計され、三重・愛知両県で約 244 億尾漁獲(三重約 98 億尾・愛知約 146 億尾)し、残存資源尾数(2015 年漁期の親魚候補)は 48 億尾と推定され、目標とする 20 億尾を確保した。

②2015 年漁期

2015 年漁期は 3 月 6 日(昨漁期 3 月 2 日)に解禁し、3 月 31 日(昨漁期 5 月 15 日)に終漁した(愛知県は 3 月 27 日終漁)。

今期の加入資源尾数は解禁前の予測どおり、近年の 3 分の 1 程度の約 89 億尾となった。

三重・愛知両県で約 56 億尾漁獲(三重約 22 億尾・愛知約 34 億尾)し、残存資源尾数(2016 年漁期の親魚候補)は約 33 億尾と推定され、目標とする 20 億尾を確保した。

なお、加入資源が低位であったことから、出漁日数は 10 日(昨漁期 36 日)、漁獲量は約 1,886 t(昨漁期の 25%)、水揚げ金額は 2 億 7,720 万円(昨漁期の 44%)であった。

(加入資源尾数、漁獲量、水揚げ金額はいずれも速報値)